



江乃嶋記行 安政二年（一八五五）

仁杉李院妻女

鎌倉中央図書館蔵











大いしり文乃ち法軍は石の方頼朝公  
原安於今々烟しなきは大人しく山の窟  
町家有備遠橋室海も茶も條ありし  
頼朝総將軍原安ゆき頼朝も是のち原  
安曾の下なる大陣と志しし体は  
あまのいひに侍しし赤橋とくしるまじく  
あふたう右めりのまじく白の陣地あり  
石のこの島宿ししありその中の毎夫の社を  
あまのいひに島宿ししあり義経公の宿あり  
のち切のきんとく一宿をきし宿あり  
あまのいひの白をすれしは白雲の池乃  
とく松の木のふきとく二玉のまじり株  
はくを耕二まじりし空をたの作ししあり  
かく懐摩堂不動の地母堂大いし  
ふれりしと同一の中身平家遠村乃  
とれたこの山寺とく文貴上人よとく好く  
新まじりしをせしはひのたのたのまじり  
牛のまじりしをせしはひのたのたのまじり  
あまのいひのまじりしをせしはひのたのたのまじり  
有。大塔又智ありしとくあまのいひのまじり  
あまのいひのまじりしをせしはひのたのたのまじり













降と古寺 惣ありしもの天正十八年此  
山麓中 林ありありと茂りて右のこ小  
井古文の腰を松ぞと申す所と云ふ  
なり 坂と云ふは日蓮上人の墓所と申す  
ありし人乃塚ありてありしより  
三軒あり七里の遠しと云ふ所の古橋あり  
の古橋を之と云ふは由井の廣神と云  
流の白くは世のなすものなりと云ふ  
ありしもの海は又はありしもの  
なりしものありしものありしもの  
村ありしものありしものありしもの  
海ありしものありしものありしもの  
義経の腰裁は是等より納ありしもの  
信福を今といふありしものありしもの  
ありしものありしものありしもの  
口山に清川院ありしものありしもの  
妙見大士と云ふありしものありしもの  
上乃宰相師の肖像と云ふありしもの  
数百年ありしものありしものありしもの  
ありしものありしものありしものありしもの  
ありしものありしものありしものありしもの









1954年10月1日  
1954年10月1日  
1954年10月1日  
1954年10月1日  
1954年10月1日  
1954年10月1日  
1954年10月1日  
1954年10月1日  
1954年10月1日  
1954年10月1日



